

KAGAWA アンバサダーからのお便り ～平田ゆたかさん～

今こそ・・・イタリアで日本を想う。

イタリアの首都の古都・・・ローマを中心に、南北に時が止まったようにゆっくりと流れるテベレ河・・・

全長 405 キロメートルある。3キロメートル離れた近くには 2000 年以上前のシーザー達の政治の中心であった7つの丘に囲まれた小さな盆地、フォロ・ロマーノがある。その後ローマ帝国は滅び、何十年間に一度の大洪水があったようだ。

盆地であったフォロ・ロマーノはテベレ河の洪水の土砂に埋もれ、人々はそこに土を盛り、家を建て新しい街ができていった。埋もれた街を掘り起こしたのはナポレオンの頃だ。現在、そのテベレ河の堤防は 10 数メートルの高さがある。車が通れる4車線の幅があり、道路には左右に 100 年以上も超えたプラタナスの並木道が何キロにも続く。それは洪水から守る役割を果たしている。そして、今の人には洪水から都市を守っているのは気づかない。

日本の福島の津波による原発事故の原因も、堤防が 15 メートル以上あれば少なくともあの事故は防げたと思う。新幹線に何億の費用を掛けるが（経済的に採算がとれるだと思いが）、堤防の費用はそれ以上に意義がある。

日本に帰国して電車の窓から眺めて感じることは、山が民家に迫り、土砂崩れの被害が起こるのではないかと深く懸念する自分がある。現実に毎年のように山の土砂崩れのために痛ましい人命が亡くする事故のニュースが聞こえてくる。

イタリアは日本と国土面積はほぼ同じ。南北に長く地形も似ているが、山の利用は日本の2倍。人口は日本の半分なので、実質的に国土の利用は一人当たり日本の4倍の広さを活用できることもあるが、イタリアは日本と同じ山が多い国ではある。が、イタリアでは山崖の近くには家を最低 300 メートル以上は離れてはなければ建てていけない法律がある。

今思う、長い目で着々と一歩一歩災害から守る都市設計が求められているのではないだろうか？

津波を忘れないように記念碑を作る議論をする前に、そして逃げる方法を考えるより、できるだけ早く災害に耐えるだけの城壁が必要ではないだろうか？

夕暮れの赤い太陽は問題がないように美しく水に照らす、ローマのテベレ河。そのローマを流れるテベレ河を眺めながら、日本のことを思いながら、何よりも災害が少なくなるのを願う。



テベレ河



平田ゆたか（ひらたゆたか）さん

綾川町出身。洋画家。1975年イタリア国立ローマ・アカデミー入学。81年ローマ市オスカー絵画賞。86年ローマ法王に作品献上。バチカン近代美術館、バチカン文化庁に作品所蔵。

◇ KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇ KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々にKAGAWAアンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されているKAGAWAアンバサダーの方々から在住国やご自身の活動等についてご紹介いただくものです。